

明るく元気の出る町

平成10年11月1日発行・毎月1日 編集・発行／秋田県東由利町役場企画課

広報

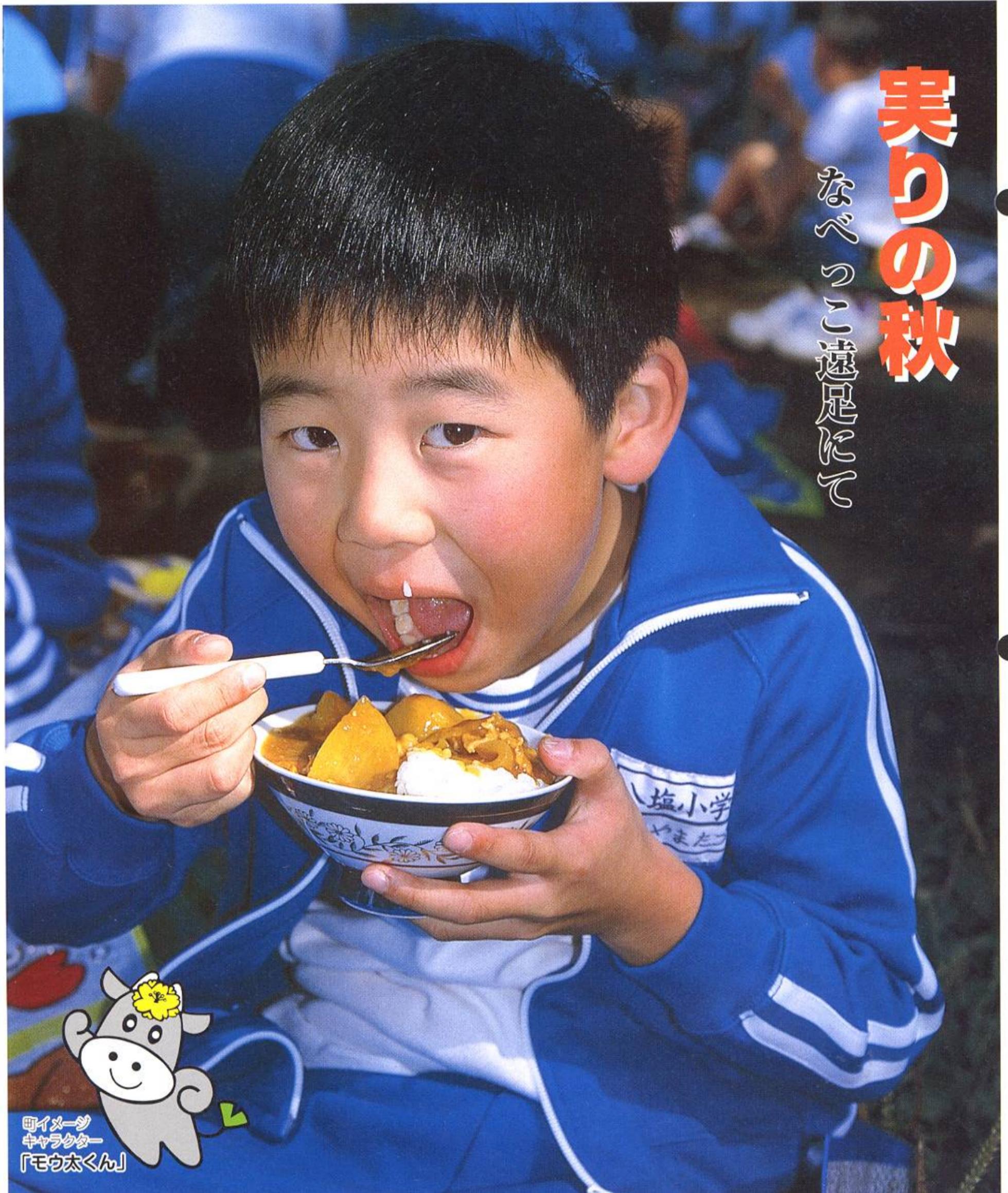
# ひかがゆり

HIGASHIYURI

 東由利町

1998 **11**

NO.524



**実りの秋**

なべっこ遠足にて



町イメージ  
キャラクター  
「モウ太くん」

# 平成10年度町功労者に石渡氏と畑山氏

10月8日に開かれた町功労者選考委員会で、平成10年度町功労者に石渡力造（蔵新田）、畑山昭一（島）の二氏、東由利町まちづくり奨励賞に畑山寅松（下吹）、小松メサ子（下小路）、佐藤忠一郎（習志野市・高屋出身）、阿部義直（沼）の四氏がそれぞれ選ばれました。

同表彰式は11月5日に関係者が出席し、有鄰館で行われます。

## 東由利町まちづくり奨励賞には四氏

今回から新設された東由利町まちづくり奨励賞は町勢の振興発展に寄与された方に贈られる賞です。

授賞式は功労者表彰と同日に行われ、阿部幸悦町長から表彰されます。



畑山寅松氏  
(77歳・下吹)

永年にわたり、民生児童委員、保護司として本町民生福祉安定に大きく寄与されました。



小松メサ子氏  
(78歳・下小路)

永年にわたり、助産婦及び保健婦として、本町母子保健の充実に大きく寄与されました。



佐藤忠一郎氏  
(87歳・習志野市)

平成三年以来、継続して小中学校児童生徒に対し、運道具・図書等を寄贈、教育振興に寄与されました。



阿部義直氏  
(88歳・沼)

永年にわたり、句作に励み、句集刊行等で、本町俳句文芸の普及振興に寄与されました。

## 町功労者決まる

### 消防と民生、生涯学習に功績

昭和二十八年、下郷村消防団員となられて以来四十二年余の永きにわたり消防人として精励されました。

石渡 力造氏 (68歳)

蔵字新田三番地二



昭和五十二年には東由利町消防団副団長、平成三年には東由利町消防団長として、旺盛な責任感のもとに防火防災活動並びに団員の指導練成に大きく尽力されました。

また昭和五十六年、社会教育指導員、同六十年、青少年教育指導員、平成四年には民生児童委員の要職にも就かれ、民生の安定と本町生涯学習の振興に寄与されました。

### 町の教育と文化に功績

昭和二十四年、秋田県教員に任用されて以来三十六年余を教職に携わり、この間、昭和五十八年蔵小学校

畑山 昭一氏 (71歳)

蔵字島田十四番地五



長、同五十九年高瀬小学校長、同六十年東由利中学校長を歴任し、同年東由利町教育委員に選任され、教育長として、学校教育の充実振興はもとより、高橋宏幸賞童話コンクール、東由利音楽祭の創設など、生涯学習の振興にも大きく寄与されました。

平成九年から社会福祉協議会長、老人クラブ連合会長にも就かれています。

町功勞者（元選挙管理委員長）

## 工藤武雄氏（山崎）に勲五等瑞宝章

町功勞者で元選挙管理委員長  
の工藤武雄氏（83）が勲五等瑞  
宝章の榮譽を受けられました。



工藤氏は、昭和三十六年に東  
由利村選挙管理委員に選任さ  
れ、在任すること三十一年。こ  
の間十六年にわたり委員長

として、選挙の公正な管理  
執行と明るい選挙の推進に  
尽力されました。

昭和四十年から平成四年  
までの二十七年間、民生児  
童委員、昭和四十九年から  
二十一年間にわたり地区老  
人クラブ会長等の職にあつ  
ては、社会福祉活動に献身

的に奉仕されるなど、地方自治  
振興に寄与されました。

また、昭和四十五年秋田県  
銃剣道連盟東由利支部に加入、  
同五十六年には支部長に就任、  
以来銃剣道などで地域のスポー  
ツ振興に貢献しました。さらに

は農林業団体役員や国勢調査員  
なども歴任し、永年にわたり多  
方面で活躍し町勢発展のため貢  
献されました。

平成四年には町功勞者として  
表彰を受けております。

## 町長日記

### 北欧への海外研修

秋田県町村会主催の海外研  
修に、九月二十六日から十月  
六日の十日間にわたって参加  
させてもらいました。

町村会では今年から四年に  
渡り町村長の海外研修をする  
ことになり、第一回はドイ  
ツ及び北欧の高齢者福祉、地  
方分権、地域活性化を研修す  
るといふものでした。

ドイツ、ベルギー、ノルウ

ギー、デンマークそしてオラ  
ンダの五カ国にいつて来まし  
た。往復も入れて、十日間で

五カ国でありますから大変で  
あろうと思いましたが、それ  
ぞれの国が飛行機で一時間か  
二時間の範囲内にあるわけ  
ですから移動は苦になりませ  
んでした。しかし国は違うので  
すから、当然言葉、通貨、食  
べ物、人種の違いはあります。

言葉の違いは日本語以外は  
どの国の言葉もよく分からな  
いという意味では同じであり  
ましたが、通貨の違いはよく  
判りました。一国を一日二日

で移動する訳で、その度両替  
をしなければなりません。な  
かなか複雑なものでした。

ドイツに到着した日が連邦  
の総選挙の投票日でありまし  
た。十六年続いたコール首相  
が引き続き政権を維持するの  
か、シュレーダー社民党政権  
が誕生するのかということに  
ありましたが、翌日の結果は  
シュレーダーさんの勝利でし  
た。しかし四〇%の得票率で

過半数には届かず連合政権で  
行くしかないということに  
ドイツもますます難儀なこと  
になってゆくということに

## 第九回 議会臨時会

### 十月二十三日招集

第九回議会臨時会が十月二  
十三日に招集され、平成十年  
度東由利町一般会計補正予算  
案など、議案二件、報告一件  
を原案どおり可決しました。  
主なものは次のとおり

●議案第一号 平成十年発生  
農業施設災害復旧事業の施行  
平成十年七月二十九日から  
三十日及び八月六日から八日  
に発生した梅雨前線豪雨災害  
による農業施設災害の復旧事

業の施行を決めたもの。  
被害箇所二十四箇所（田・  
九、水路・十一、道路・二、  
頭首工・一、ため池・一）

●議案第二号 平成十年度東  
由利町一般会計補正予算（第  
四号）  
一億一千三百三十三万九千  
円を追加し、歳入歳出の予算  
総額を四十五億二千五百七  
万二千円としたもの。

主な補正予算内容は、農業  
用施設災害復旧費として四千  
八百三十四万五千円、土木施  
設災害復旧費として六千三百  
四万一千円など

た。歴史的な時にドイツに行  
きました。

今、ヨーロッパでは十五の  
国が欧州連合をつくり、さま  
ざまな課題を克服していこう  
としています。通貨は来年よ  
り準備ができた国からユーロ  
に統一しようとしています。

私たちには国が連合するなど  
想像もできないことですが、  
一時間や二時間で行ったり来  
たりできる距離にあるし、歴  
史も共有している部分が多い  
訳だからと、理由が少し分か  
ったような気が致しました。  
高齢者福祉を見るという視

察目的でありましたが、歴史  
も考え方も違う訳でそのまま  
日本にということにはなりま  
せんが、かなりの時間をかけ  
て今の状況を作り出したこと  
を知らされました。しかもま  
だ完成されたものではないと  
言われました。

ただ、高福祉には高負担の  
裏付けがあるということにし  
た。消費税もドイツが一六%  
とか、ノルウェーでは二三%、  
デンマークでは二五%という  
ことでした。  
いろいろ考えさせられた十  
日間でした。



# 子どもたちにもっと生きる力を

## 特集：子どもたちは今

ナイフ事件やいじめ、援助交際、薬物乱用など、子どもたちの将来を心配せざるにいられない事件が目立ちます。次代を担う子どもたちが心豊かな人間に成長してほしい……。それは家族だけでなく、学校、地域、社会全体の願いです。子どもたちの「心の教育」の重要さが叫ばれているいま、わたしたちは、子どもたちに何をどう伝えていくべきでしょうか。

を、子どもたちが身につけることを第一としています。

### 生きる力は豊かな感性や心から

「生きる力」とは豊かな人間性、すなわち感性や心から生まれてきます。そして、そのような心を育てるのは、家庭や学校、そして社会全体の役割です。

家庭、学校、地域社会、それぞれの役割や在り方を見直し、子どもの心の教育について、何ができるのかを考えなければなりません。

今回、それをふまえ、本町の教育状況、学校、児童生徒の取り組み、そして地域で家庭で大人たちは何をすべきか特集してみました。

子どもの笑顔、守りたい……

### ふつうの子の「いきなり型」非行目立つ

子どもたちにもつわるさまざまな事件が、深刻な社会問題になっています。

殺人や傷害、恐かつなどの凶悪、粗暴な非行の増加、依然として深刻な児童・生徒間のいじめ、覚醒剤など薬物乱

用、援助交際など女子の性の逸脱行為。ここ数年、少年人口が減っているにもかかわらず、こうした問題行動による補導人員は年々増えています。特に、最近では、中高校生による非行の割合が高くなっており、それまで問題行動のなかったふつうの子が、いきなり非行に走る「いきなり型」非行が多いのが特徴です。

また、遊ぶ金欲しさが動機の非行や、マスメディアや友人に引きずられる「模倣」型の非行も増えており、そうした非行に対する抵抗感も薄れている傾向にあります。

### 問われる

### 「心の教育」の在り方

子どもたちの非行増加の背

景として指摘されるのは、子どもたちのモラル低下や心の問題です。最近の子どもたちの規範意識は低下しています。子どもたちのさまざまな問題行動の背景には、こうした心の問題が見え隠れしており、「心の教育」の在り方が問われています。

この「心の教育」について、文部省の中央教育審議会は、平成十年三月、「幼児期からの心の教育の在り方について」の中間報告をまとめた上、各界の意見をふまえ、六月に答申を行いました。

「新しい時代を拓く心を育てるために、次世代を育てる心を失う危機」と題したこの報告では、新しい時代を切り開いていくための「生きる力」

# 子どもものの問題は大人の生き方方の問題

## 小笠原町教育長に聞く

子どもが分からなくなっていると口でいうのは簡単ですが、教育現場はそこで踏みとどまっているわけにはいきません。

社会の同質化、学歴志向、生活の個人化志向など困難な問題がある中、この十月一日、教育長に再任された小笠原諒治氏に町の教育の現状と今後の教育方針などを伺いました。

また、同時に町内各小中学校長に学校教育の取り組みについて寄稿いただきました。

### 今後の課題は

「生きる力」と「ゆとり」

教育の現状について、まず伺いたいのですが。

### 小笠原諒治教育長



「ご存じのとおり最近の教育界はめまぐるしい状況にあります。二度にわたる中教審の答申、教育課程審議会の答申、幼時期からの心の教育についての答申などの問題提起があり、これを踏まえた上で戦後五十年間のわが国の教育の功罪にたった大改革が行われています」

答申を読むと改革の中心は生きる力とゆとりということだと思えますが、特にゆとりについて具体的な町での取り組みを教えてください。

「町内の各学校において、ゆとりを取り戻すために、色々な工夫をしております。例えば、学校行事の徹底的な見直しを行い、様々な行事を精選すること、授業で教える内容についても基礎を重視して多くのことを教え込まないこと、知識中心ではなく、体験を大切にしたい授業を心がけています」

### 地域・家庭連携によるふるさと学習の取り組み

ゆとりというと、二〇〇二年からは学校週五日制を控えていますね。

「これからはふるさと教育が大事です。ふるさとの良さや可能性を発見していくこの活動では、児童生徒を地域社会での生活、社会、自然体験を豊かにさせるた

め色々な配慮が必要です」  
地域文化、自然、産業、歴史等の体験ということですか。

「どの学校でも真剣に取り組んでいます。教育委員会でも、自然教室や宿泊学習、各奉仕体験などを積極的に応援しています。いづれにしろ、地域、家庭との連携が重要です」

### 家庭こそ

### 教育の出発点

子どもにとって、大人の存在というものは重要なのでしうか。

「子どもの問題は、結局我々大人の生き方の問題であります。大人のものの見方、考え方が子どもに大きな影響を与えているからです。例えば、生活の個人化の波に流されると、自分中心になってしまい思いやりの心が育っていきません」  
家庭がやはり一番大切ということでしょうか。

「家庭は教育の出発点だ

と考えます。人間として基本的な倫理感を養い、しつけを行う場であり、家庭が本来果たすべき役割は、基本的な生活環境、生活能力、豊かな情緒、他人への思いやり、善悪の判断などだと思います」

### 社会全体のゆとりが必要な時代

家庭で過ごす時間を持つにはやはり社会全体のゆとりが必要なのではないでしょうか。

「そうだと思います。教育委員会では、学校や団体、サークルとの連携のもとに、保護者や家族に関する学習機会の一層の充実、ボランティア活動など親子の共同体験の機会の充実、学区ごとの家庭教育セミナーの充実を重視した取り組みをと思っています」

また情報化時代ということで、各種広報と連携した情報発信の強化に努めたいと考えています」

# 校長が語る私の学校教育方針

## 教育改革のうねりの中で

今、学校は大きな教育改革のうねりの中にあります。先の中教審答申の内容には「学校を地域にもっと開くこと」も出されています。



東由利中学校  
小川征司校長

今後の改革では、激動が予想される二十一世紀社会の担い手としての子どもたちが、創造性豊かに、たくましく生き抜く力を蓄えるために、学校、家庭、地域社会三者が、共に育てる考えで、各々の役割を果たすと共に、協力連携を強めながら教育力を高めていくことが要求されていると、とらえています。

年に数回実施している、「フリー参観日」は、地域の中学校としての在り方の模索の一つです。

## めざす高瀬っ子とは

子どもたちがそれぞれの持てる力を十分に発揮できるよう、これまでに以上に、学校が家庭や地域の人々と協力を深め、つぎのような高瀬っ子に育てていきたい。



高瀬小学校  
村上一二三校長

一、杉のように「伸びる」子ども  
生涯を通じて学び続けることができるよう、ブックセンター、ワークスペース、メディアセンターを利用し、体験を重視した学習を進める。

二、太陽のように「あたたかい」子ども  
一人ひとりを大切に学ぶ学級づくりを基盤に、他学年とも交流ができるように工夫された行事の実施。

三、大地のように「たくましい」子ども  
苦しいことから逃げず何事にも挑戦し、汗を流してがんばる。

## 「明るく元気のでる町」の担い手たちと

「生きる力」という生涯学習の基礎的な力を育むために、経営の軸を「おもしろさ（健康でたくましく粘り強い子供）」に置き、地域素材・人材を活用しながら、日々の学習や生活の



八塩小学校  
大久保敬一校長

中で、一人一人の表情を大切にし、ふるさとはたらきかける子供の育成を目指している。

研究二年目の今年度は、授業を中心にした全教育活動の中で、自分の思いを素直に表現し、勇気を持って積極的に考えを話せるようになるための学習を展開している。

子供たちは確実に成長を示しているが、まだまだ伸びる力を秘めている。今後も一人一人のよさを引き出し、明るく元気に自分の思いを表現できる素直で思いやりのある子供の育成を目指し、表情豊かな先生方とともに努力していきたい。

## 心をもて、心を面に、大きな声に

能の面に象徴される神秘的な微笑みは、古来、日本人特有の洗練された心情の発露として認識されてきた。しかし、一方、外国の人々には「アルカイックスマイル」として、何を考えているのか分からない人種と



大琴小学校  
佐藤テイ子校長

映っていたことも事実である。

二十一世紀は目下である。このポードレスの時代に飛び立つ子どもたちに、国際化社会を生きぬく資質を身につけさせなければならぬ。

その初めは、しっかり考え、表情にきちんと現し、はっきりとした声で相手に意志を伝えることである。あいまいさの中には、自分を確立し得ない甘えが潜んでいるように思う。

今、大琴の子どもたちは、自分で考えるかっこいい子ども、相手を思いやるやさしい子ども、最後まで取り組むたくましい子どもをめざして、心を顔に、思いを声に出すための学びを続けている。

# 小学校としての取り組み

全国的な少子化傾向は本町でも例外ではありませ  
ん。平成十一年度の本町小学校入学児童は、三小  
校合わせて三十七人。とかく小人数での学習には競  
争力がなくなるといわれがちですが、実際には指導  
方法次第で克服できるのではという考えもあります。  
ここでは大琴小学校の取り組みを取り上げます。

## 「大琴小学校」

### 学校指導公開研究会



▲1年生の授業「こえにだしてよもう」から

「こえにだしてよもう」をはじめ、OHPを利用した三年生の授業など、それぞれのクラスが創意工夫した授業内容を公開していました。

「言葉を磨き、心を磨き合う子ども」をテーマに同校が研究に取り組んだのは平成八年だといえます。それ以前には、自己教育力の向上が見られた反面、自分の思いを伝えたり、大きな声ではっきり話したりできないという児童た

十月六日、大琴小学校で国語科の自主公開研究会が行われ、四十人を越える教育関係者が訪れました。どの教室からも児童たちの元気な、かつ真剣な声が聞かれました。

一年生の劇仕立ての授業

「子どもたちの学習にとつてはほんの一部にしかあたらぬ活動ではあるが、生涯にわたる学習や生き方そのものにかかわる大事なことである」同小校長の言葉がこの活動の全てを物語っているようです。

今後音読活動を継続し地域が誇れる子どもたちを育ててほしいものです。

十月六日、大琴小学校で国語科の自主公開研究会が行われ、四十人を越える教育関係者が訪れました。どの教室からも児童たちの元気な、かつ真剣な声が聞かれました。

音読集会などの活動を通じて少しずつ積み重ねてきた実績。当日の研究会はその実践活動の総決算です。

「国語の学習で、音読、朗読と話し合い活動を効果的に関連づけることにより、思いを豊かに広げ表現する子どもが育つのではないか」、「音読活動を学校生活に組み入れることにより、進んで発表を樂しむ心が育っていくのではないか」。この二つの仮説を元に実践が始まりました。

「国語の学習で、音読、朗読と話し合い活動を効果的に関連づけることにより、思いを豊かに広げ表現する子どもが育つのではないか」、「音読活動を学校生活に組み入れることにより、進んで発表を樂しむ心が育っていくのではないか」。この二つの仮説を元に実践が始まりました。

## 「高瀬小学校」エプロンシアター



▲笑いあふれたエプロンシアター

十月二十日、高瀬小学校体育館でエプロンシアターが行われ、同小の児童、父兄などが楽しみました。

このエプロンシアターは、同小読書教育の一環。台詞を何人かで朗読、それに合わせて一枚のエプロンをステージに見立て、ポケットから人形や小道具を出し物語を進めていくもの。出し物は「大きなカブ」。児童たちは自分なりに演技工夫していました。

## 大きな声でハキハキと



▲4年生の授業「場面をくらべて」から



▲6年生の授業「豊かに想像して」から

# 中学校としてこの取り組み

中学生が分からない・・・、最近よく聞かれる言葉です。しかし、なにかと多感な中学生、不安定な気持ちが周囲にそう思わせるだけではないでしょうか。そんな彼らが一日の大半を過ごす中学校。中学校として生徒たちに何ができるのでしょうか。ここでは、中学校の取り組みの一つとして学校安全公開研究会と心の教室を取り上げてみました。

## 東中学校安全公開研究会



▲3年B組で行われた道徳の授業

「場に応じて判断し、安全に行動できる生徒の育成」を研究主題に、十月二十一日東由利中学校で学校安全公開研究会が行われ、教育関係者など五十余名が出席しました。

東中は平成九、十年、日本体育・学校健康センターから学校安全研究校として指定をうけ、日頃各学部に分かれ、安全研究を続けています。

当日は日頃の成果の集大成ということで、道徳部による授業と、全校による交通安全集会在行されました。

三年生が行った交通安全道徳授業では、自他の生命を尊重する態度を育てるねらいをもった授業が行われ、生徒が教師と活発な意見交換を行いました。

その後の全校集会では、「交通安全の願いをこめて」と題し、様々な取り組みなど研究成果が発表。生徒による交通安全をテーマにしたクイズ、ビデオを利用した生徒たちの日頃の活動・町の人々の声、小学生と中学生の意見発表などが行われました。いかに生徒一人一人が自他の生命を尊重する態度を身につけ、変化する社会に対応できる能力を持てるか。今後の取り組みが期待されます。

## 東中に心の教室設置



心の教室相談員  
佐々木宏明氏  
(本荘市・62歳)

## 大切なのは自分の意志での決定

町教育委員会では十月一日

こと

より、中学校の生徒たちが月数回悩みを気軽に話すことで、ストレスを和らげ、心のゆとりを持てる環境提供をと、「心の教室」を設置しました。

今回、相談員として前東中学校長の佐々木宏明氏が委嘱されました。この「心の教室」について佐々木氏にお話しを伺いました。

現在の状況について

「二年生の時に一緒だった三年生の生徒が、昼休みや放課後に久しぶりという感じで訪れますね。ちよつとした心配ごとなどの相談はありますが、それほど深刻な悩みの相談はまだありません」

生徒との対応で心がけている

「基本的には自分で意志決定することが重要だと思います。私が結論に誘導する形ではなく、話しを聞き、自分自身の力で結論を出すことが大事だと思っています」

この教室の意義について

「心の教室が学校と地域（保護者、生徒、住民）との仲立ちの役割を担うことが出来るようになったらいいです」

町の皆さんにひとこと

「色々な学校を回りましたが、東中の生徒は挨拶がよく、礼儀正しく明るいんです。生徒は親を、そして地域の大人たちを見て育ちます。今後も生徒たちを見守ってほしいです」

# 東中生徒たちの取り組み

それでは、東中の生徒たちは何をがんばっているのでしょうか。十月十日に行われた東中祭では、生徒たちはそれぞれ与えられた役割に対して、真剣に取り組んでいました。

今回の東中祭は「故郷」がテーマ。各展示物を始め、ステージでは合唱、弁論などが行われました。

ここでは、ステージ発表の演劇の練習日程にそって紹介します。限られた時間の中で、全力を発揮した生徒たちは何を思っているのでしょうか。



10月7日(水)  
舞台での練習



9月30日(水)  
場面台詞暗記中



10月8日(木)  
衣装をつけて練習



10月2日(金)  
礼法室での演技練習



10月9日(金)  
前日のミーティング



10月3日(土)  
礼法室での演技練習2

## 「故郷」 東中祭



10月10日(土) 東中祭当日  
「いよいよ本番。先生が最後の演技指導を行う」



休憩中の一コマ  
「夜食はおいしいなあ」

# 皆の力で作り上げた劇

## 演劇…まっかつかの長者

皆が一丸となった雰囲気の中、一つのものを作り上げるということ・・・。中学三年生たちが中心になり、作り上げられた演劇「まっかつかの長者」にはそんな意味があったようです。東中祭当日公開された劇は、一般の方も観覧に訪れ十分に楽しんでいました。

約一カ月の練習期間でどれだけのものが出来るのか、先生も生徒たちも心配だったといいますが、それも含めて中学生生活の良い思い出になったようでした。皆が協力して一つのことをやり遂げるといふこと。そこから何かが始まるのかも知れません。



▲本番を終えて全員で記念撮影



### 衣装小道具係

▲全員の衣装を始め、それぞれが身につける小道具を夜遅くまで作っていました。



### 音響係

▲音のタイミングも劇の善し悪しにかかわります。何度も試行錯誤しながら本番に備えました。

### 出演者からひとこと

- ①選ばれた時の感想
- ②練習を始めての感想
- ③劇を終了した感想



ともひろ 小松智宏君  
長者役

①なぜ自分がという感じだったが、友達の励ましでやる気になった。  
②充実感がある。夜遅くまで一つのこと集中することは楽しい。  
③終わってほっとした。自分なりに全力は尽くしたので満足。



しゅん 遠藤瞬君  
悪人役

①自分に適役かなと思った。むしろまとめ役の方が大変そうだと思った。  
②役が難しく台詞覚えより細かな演技が難しい。仲間との練習は楽しい。  
③自分はこういう道が合っているのかも知れないと思った。出来は満足。



だいしん 阿部大真君  
絵描き役

①台詞も少し楽しかったと思っただけ、甘いものではなかった・・・。  
②役ではべこべこしなくてはいけなくて辛い、やりがいがある。  
③間違えずに終われて良かった。全員がんばったと思う。



みお 長谷山未央さん  
長者の奥さん役

①台詞量が多く大変だと思った。  
②日に日に台詞を覚えていくのが楽しい。ただ人との台詞関連が難しい。  
③無事に終わることが出来てほっとした。演技も自分としては満足している。



あつし 佐藤敦君  
下男役

①少し不安でしたが、みんなが協力してやれたらいいなと思った。  
②台詞もそれなりに多く充実している。自分なりの演技をしたい。  
③みんなが一つになってがんばった。成功してよかったと思う。



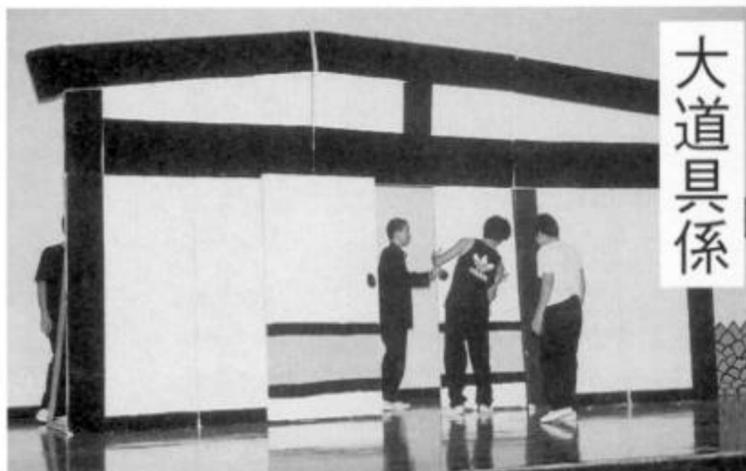
たつや 鈴木達也君  
村人1役

①前からやりたかったし、中学時代の思い出になると思った。  
②待ち時間が多い。自分に与えられた仕事をこなしていいこうと思った。  
③無事終了して良かった。解放感でいっぱい。すっきりした。



**照明係**

▲細かくタイミングをチェックした台本片手に、毎晩劇の練習につきあいがんばりました。



**大道具係**

▲いかに舞台映えするセットを作るか、柳原先生を中心にカナヅチ片手に大忙しでした。



**劇を終えて**

**指導担当・関口先生**

正直な話し、もっと練習させてやりたかったというのが実感です。実質三週間の練習でしたが、皆、遅くまでがんばったと思います。当日はかなり緊張していたようです。先生にも生徒にも好評でした。役者はもちろんのこと、裏方さんの頑張りも素晴しかったです。一つのものをつくりあげる姿、一丸となった雰囲気。この劇が三年の中学生生活最後の良い思い出になればと思います。

**全員一丸でやり遂げた満足感**



伊東深雪さん  
村人2役

①人前で何かやるのが苦手なので、正直に困った。  
②演技が難しい。日頃しゃべらない隣のクラスの人と話せて楽しい。  
③うまく出来て良かった。楽しかったと思う。



小野寺広行君  
隣村の長者役

①恥ずかしいと思ったが、選ばれて少し嬉しかった。  
②皆さん頑張って大変良い。あとは全力をつくすだけ。  
③役者としてやるべきことはやった。今はそれだけで満足している。



小松容子さん  
村人3役

①現代劇も面白いかと思った。  
②関西の言葉が難しいが役的にはやりやすいと思う。夜遅くまで友達とやるのが楽しい。  
③ほっとした。楽しかったので機会があればまたやってみたい。



小野和菜子さん  
隣村の長者奥さん

①選ばれてやる以上、がんばろうと思った。  
②台詞に演技をつけるのが難しい。夜遅くまでやるのが楽しい。  
③燃え尽きました。今度は現代劇もいいかもしれない。



大庭也祉君  
隣村の役人1役

①前から出たいと思っていたので、やったと思った。  
②役自体はいいけれど、待ち時間が多く、夜遅くまでやるのがつらい。  
③良かった。終わりがよければ、すべてよし、という心境。



小野大輔君  
隣村の役人2役

①中学生生活最後の思い出になると思った。  
②与えられた役をしっかりとやりたい。仲間と夜遅くまでやるのが楽しい。  
③緊張したが、自分としては楽しかった。もう少しやれたら...

# 下郷分校生もがんばっている

今年本町の本荘高校下郷分校が創立五十周年をむかえました。この半世紀の間、地域に根ざした身近な高校として親しまれてきました。

小学、中学と過ごしてきて、高校は一つの分岐点。進学する者、就職する者、それぞれが大人への道へと少しずつ進んでいく大切な時期です。

五十周年を記念して実施された鳥海登山について、同校 庄司昭夫教頭先生にお話しを伺いました。

## 下郷分校50周年記念

### 鳥海登山



▲当日は絶好の天気にも恵まれた



本荘高校下郷分校  
庄司昭夫教頭

## 人生にも似た登山体験

十月九日の鳥海登山は素晴らしい天候だったようですが。

「個人的にも年に二十回前後、四季を通じて登っていますが、あれほどの秋晴れも珍しいですね。当日は全校生徒七十人中六十四人が参加しましたから、いい条件で登らせたいと思っていましたので・・・」

登山準備なども大変だったのではと思うのですが。

「準備については、時間配分や安全対策など事前に先生方にも二度ほど登っていただいていた確認していただき、万全を期しました。また全校集会などで山の話をしながらか、登山の気運を盛り上げていきました。PTAの協力もありがたかったです」

当日はいかがでしたか。



▲生徒たちも満足した鳥海登山

「参加率も良く、参加した生徒全員が無事登頂することができて驚いています。自分の力でやり遂げた結果に、生徒たちも満足しているようです。また、生徒たちが下山の時など困っている生徒を助け、がんばってくれたのが嬉しかったですね」

登山を行った意義、教育とのかかわりについてお話しただけならば。「山に入ると生徒たちの何かが変わりますね。登山では精神力が七割を占めているといえます。これは自身自身の力でやり通さなければいけないということですが、どこか人生の目標達成に似ています。」

人間一度辛いことを体験すると次はそれをバネにがんばっていかれます。学校の日常生活で体験することはなかなか難しいですから、こういう試みが役に立てばと思います。

三年生のほとんどはあと半年で社会に出ていきます。この登山の思い出を胸にがんばってほしいですね」

# 子どもたちの未来に大人がでびきるいっしょ

## 「ふるさと創造」を語る会



では、学校、児童生徒のがんばりに対して、地域の大人たちは何を考えているのでしょうか。子供たちが二十一世紀の町を背負っていくにしても、今その基礎を作るのは私たち大人の責任です。そこで「我々の声が町づくりに生かせないか」と、八月に「ふるさと創造を語る会」が行われ、参加した町内外の町関係者二十五名が、町に対する率直な意見を阿部幸悦町長と語り合いました。子供たちが生きる未来のために、大人がやらなければならぬことは何か。同会の模様を紹介します。

## 町を好きになることが大切

司会 「本日はふるさと創造

を語る会にご多忙のところ

ご参加いただきまして感謝いたします。会に先立ち、皆さんから会について、また町に対する思いなどをお願いします」

A 「中学卒業後四十数年たちます。その間、外から東由利町を見てきました。町の活性化、町をアピールするための方法など外からお手伝いしたいと思います。また退職した方がこの町で余生を過ごすことができると考

時代の変化が激しいですね。福祉団体に所属している関係で老人問題に興味があり、何か意見を出せばと思っています」

F 「東由利町というものをハードだけでなく、ソフト面で支えるようなよりよい町づくり案が出せればと考えて出席しました」

G 「私の自治会は東由利の端といわれますが、人口だと自負しています。ものの見方は考え方次第で変わるのではないかと思います、視野を広げるべくこの会に参加しました」

H 「面識のない方が多いですが、せっかくなので機会ですし、諸先輩方の意見を聞きながら、町がどうあるべきかを考えていきたいと思っています」

I 「今年五十歳。娘が岩手県にいることから、岩手との対比で東由利町のことを考えたいです」

J 「勤務先が本荘なので顔を覚えてもらおうと分館活動に力を入れています。町づくりに大切なことはものの考え方を考えることだと感じます。自分が町を好きになることがまず大切なのではないかと思います。



## 変わりつつある東由利町

親がマイナス志向だと子どもたちも知らず知らず洗脳されてしまいます。大人が東由利の良さを発見する会になればと思います」

**K**「本荘の美容室で働いていた時のお客さんが店を訪れてくれて十年。道路が良くなり気軽に通うことが出来るようになったといってくれます。またその際に湯楽里が出来たことで家族で町に訪れてくださるようです。これからも東由利町の良い所を紹介していきたいので、この会がそのきっかけになればと思います」

**L**「ずっと家で子育てをしています。この会で家については得られない情報を持ち帰りたいと思います」

**M**「四年前に東由利町に来ました。町を説明する時、以前は苦勞していましたが、湯楽里が出来て説明が楽になりました。この会に参加することで何かを得られたらと思います」

**N**「一年前から羽後町より通勤しています。仕事から最近県内外からぶれっそが注目されているのが分かります。こういう施設は今後各地に増

えるだろうから、先駆的存在になってほしいと思います。ハード面ではなくてソフト面で協力できたらと参加しました」

**O**「タクシー業を始めて三十数年。利益だけでなく公共性という部分でがんばってきました。老人を病院に運んできたことが誇りです。自分も東由利のために何かできたらと考え、参加させていただきます」

**司会**「それでは意見提言の交換を行いたいと思います。時間が限られていますので、全員とはいきませんが、自由に感じていることを発言していただけたらと思います」

**P**「東由利の教育に携わって三年、自然の素晴らしさ、人情の厚さに触れ、感動の毎日です。また教育環境にこれほど恵まれたところはないというぐらい教育に力をいれている町ですね。児童数の減少が心配ですが、逆に一人一人に目が届くという利点もあるのではと思います」

**Q**「分館活動をしています。若者



が振り向いてくれない状況にあるように思います。東由利のイベントも若者向けのものが少ないので力をいれてほしいです。

また、夏場、本荘に海水浴に行く内陸部の人々を町に立ちよらせることができるような仕掛けがあればと思います」

**R**「私も祭りや行事に若い世代が参加してくれないのが悩みですね。三十歳になっても今だに若手という状況です。

消防に関しては改革があつて若い世代が参加するようになっていて、若い世代を生かす施策などがあると思います」

## 悩みは若者の行事参加





▲会員から活発な意見が……

S 「誇れるものは自然が美しいということ。整備も大切ですが、自然をこわさないように願います」

T 「ぜひ来年の県植樹祭を盛り上げていただきたいです。そのために、我々が協力できることはないでしょうか」

町長 「まずは八塩地区の開発現場を見て、皆さんからご意見などもうかがう機会も思っております（その後町長による植樹祭の概要説明）」

U 「秋田市から大琴分譲宅地に期待しています。宅地に対する考えや、今後の展開について考えがあらましたら教えてください」

町長 「まずは、山間部から国道沿いに出てくる際の受け皿になったらという基本的な考えを持っています。この後、蔵、老方、館合にも造りますが今後の動向が楽しみです。その他今後の町政についての考えがありましたら、ぜひお聞かせください。ご自由にどうぞ」

V 「雄和町でパイオ関係の研究者を受け入れてるように研究者等を連れてくるのもいいかも知れません。また、一種の芸術村のようなものを

## テーマは自然と人との共生に

造るのもいいかも知れません」

W 「都会で学べない自然の宝庫でもあるし、都会から家族単位で町に訪れてもらい、地域住民との交流ができませんだろうかと思えます」

X 「八塩山麓に住んでいる立場から見ると八塩開発などハード面は進んでいますが、ソフト面にもっと力をお願いします。特に八塩に訪れる観光客のために、地域の協力、教育なども必要なのではないのでしょうか」

町長 「山紫水明の里づくり。東田利には百の緑があるといっています。白神山地のような人が入らない自然も良いですが、わが町では自然と人がどう共生していくかがテーマであります。皆さんの意見を今後の施策展開の参考にできればと思います」

司会 「その他ありませんか。どんなことでも結構です」

Y 「こういう場をつくる町長に感謝したいと思えます。なんといっても重要なことは、町民の意見を直接町長が聞いてくれるということ。そこ

から今までにない町づくりができるのではないのでしょうか」

司会 「最後の意見に関連して、町長にこの会に対する思いを話していただきたいのですが」

町長 「こういう議論ができるのは、やはり時代のせいもあるでしょう。活性化拠点、交流人口という言葉は昔ありませんでした。また、これらは行政の未知の部分でもあり、この会を通じて我々が行っていることを検証するための場づくりができないかという思いもあります。

人がいて地域がある。次世代を育てながら充実した生き方ができる町づくりを、この会で今後議論をしていただければと思います。二時間という限られた時間ではありましたが、いい会になったと思います。今後ともよろしく願っています」

司会 「皆さんの貴重なご意見を参考に、よりよい町づくりの参考にしていききたいと思います」

※八月二十日行われた「ふるさと創造」を語る会を再構成しました。

## 充実した生き方が出来る町を

# 未来にむけて・・・宅地分譲開始

町の未来にむけての一つの施策である宅地分譲事業。その第一歩として「サンガーデン大琴」が完成し、いよいよ十一月二十四日から分譲申込受付開始の運びとなりました。分譲価格は一坪あたり四万円です。太陽があふれるみんなが集まる庭園をイメージしたこの分譲地、町の定住促進対策の一つとして期待がかかります。子どもたちの明るい声があふれる場所。町の未来はここから始まるのかも知れません。

## 分譲条件等

### ■分譲対象者■

現在、住宅の建設計画があり、住宅用地がなくて困っている個人で、三年以内に建設が可能な方。法人、賃貸住宅建設が目的の場合には対象になりません。

### ■申込方法■

①住民票謄本を添えて申込書に希望する区画番号を明記の上申し込んでください。申込み区画数は一人一区画です。

②申込期間終了後、書類審査の上、土地売買契約を締結しますが、同一区画に二名以上の希望申込みがある場合は抽選により決定します。

③当初申込みで残区画がある

る場合、随時申込みの取りまとめを行うこととし、先着順に希望する区画を分譲します。申込状況などについては「役場通信」等でお知らせいたします。

### ■区画面積■

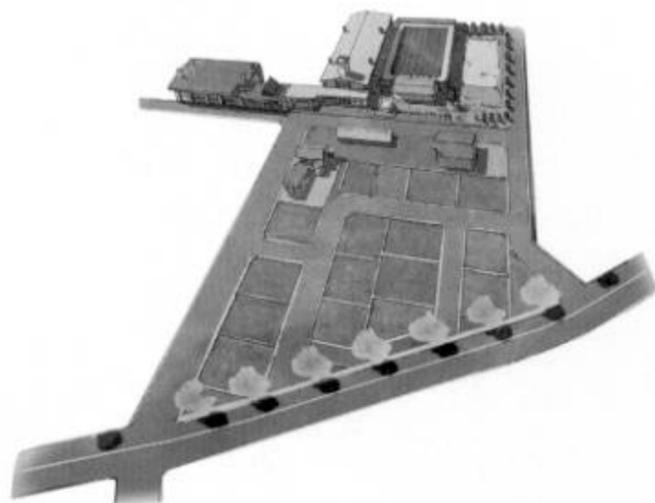
分譲面積、価格は下記

# サンガーデン大琴宅地単価は 一坪当たり40,000円

(1㎡当たり12,122円)

●申込受付期間・・・11月24日(火)～11月30日(月)

●申込・相談先・・・東由利町役場企画課 ☎69-2113



▲完成した「サンガーデン大琴」

## 分譲宅地16区画 各面積



# 家庭で育てたい「豊かな心」

ここまで、東由利の教育状況、そして町地域の大人たちの取り組みを取り上げてきました。しかし、中央教育審議会の中間報告では、もっとも重要なものは家庭であるとしています。子どもたちの豊かな心は、小さいころから育てていくもの。そのために最も大きな力を発揮するのが家庭です。家庭では子どもたちに何をすべきか、中間報告の提案を紹介して特集の結びとします。



## 家族の在り方を見直そう

子どもたちは「家庭のみんなが楽しく過ごす」ことを、家庭の一番大切な働きと考えています。

子どもにとって、家庭は家族の愛情に触れる精神的なよりどころです。そこでの人間関係は、良い面でも悪い面でも子どもの成長に大きな影響を与えます。まず、それぞれの家族の在り方を見直すことが出発点です。

- ・ 思いやりのある明るい円満な家庭を
- ・ 夫婦間で一致協力して子育てを
- ・ 会話を増やし、家族の絆



## を深める

- ・ 過干渉をやめる
- ・ 父親の影響力を大切に
- ・ ひとり親家庭も、自信をもって子育てを

## 悪いことは悪いとしっかりしつけよう

モラルの形成は、家庭でのしつけが基本です。愛情と信頼関係を築きながら、必要なときには厳しく叱り、誤りを正すことが必要です。

また、親自身が日常生活の中で手本を示していくことも

大事です。

- ・ やってはいけないことや間違った行いはしっかり正す

(叱るときは、気分や感情に流されず一貫性をもつ)

- ・ 自分の行いには責任があるということに気づかせる
- (家事分担や、地域活動やボランティア活動など異年齢集団での活動を通して、自立心や責任感をもたせるしつけを)
- ・ 思春期の子どもから逃げず、正面から向かいあう

(思春期の子どもには、自立を促すとともに、自らの責任を自覚させるようにしましょう。)

また、子どもが問題を抱えているときは、微妙な変化がサインです。そのサインに目を背けず、子どもの会話の糸口を見つける努力を)

## 思いやりのある子どもを育てよう

大人の差別的な意識は、その言動を通じて、子どもの中に再生産されてしまいま



- ・ 親自身が偏見をもたず、差別しないことを示していくことが大事です。
- また、高齢者や弱者に対する思いやりの大切さを身近な実践を通じ学ばせましょう。
- ・ 祖父母を大切にする親の姿を見せる
- ・ 手助けの必要な人を思いやる
- ・ 差別や偏見を許さない
- ・ 生き物との触れ合いを通して、命の大切さを教える
- ・ 幼児には親が本を読んで聞かせる

# 郷土が生んだ音楽家しのぶ

町が生んだ音楽家、小松耕輔、三樹三、平五郎、清四兄弟の業績を讃えようと毎年行われている「東由利音楽祭」。

この音楽祭は平成五年に四兄弟の顕彰と、合併四十年、町制執行二十周年を記念して始められたものです。

今年六回を数える音楽祭は十月二十五日、東由利中学校校体育館で行われ、町内外の六コーラスサークル、町内児童、生徒など八百余名が参加しました。



▲出場者全員で合唱

## 第6回 東由利音楽祭

音楽祭は東由利中学校吹奏学部の演奏で幕を開けました。

主催者である阿部幸悦町長は先日行われた研修先での音楽体験を例にあげながら「良い合唱を楽しみにしています」とあいさつしました。

第一部では児童、生徒たちが耕輔作曲の歌などを披露しました。また今回初めて水慶みどり両保育園が参加、可愛い唄声に会場からは拍手が寄せられました。

第二部の町内外の各コーラスサークルの発表では、「母」、「風」、「高原の歌」など、耕輔、平五郎の作品のほか、「四季は輝く」、「蔵造りのある町」などのふるさとへの郷愁を誘う曲を合唱しました。

秋晴れの空に届けと自慢の唄声を響かせた音楽祭。最後は出演者全員が「四匹のお馬」、豊島重孝氏作詞・曲の「東由利町賛歌」を合唱、郷土が生んだ偉大な音楽家たちの業績を讃えました。生涯音楽という言葉がまさに似合う音楽祭に年々育っているようです。

町功労者（元民生委員）

## 遠藤莊二郎氏ご逝去

町功労者で民生委員協議会総務・選挙管理委員等を務められた遠藤莊二郎氏が、九月三十日ご逝去されました。八十二歳。氏は、昭和三十七年東由利村民生（児童）委員に任命されて以来平成四年まで三十年の永きに渡り在任、この間十四年間、民生委員協議会総務を務められた。昭和五十年からは社会福祉協議会理事、同六十年からは同会副会長の要職を務められ社会福祉の向上に尽力されました。また昭和三十九年から二十八年間選挙管理委員、同五十七年から四年間、町監査委員として、地方自治の振興に寄与されました。平成五年には町功労者表彰を受けられています。故人のご冥福をお祈りいたします。



東由利町自治功労者

【元東由利村（町） 議会議員】

## 長谷山直助氏ご逝去

東由利町自治功労者で元東由利村（町） 議会議員の長谷山直助氏が十月十九日ご逝去されました。八十八歳。

氏は昭和二十一年から同四十年まで三期九年間を東由利村農業委員として活躍、また昭和四十七年東由利村議会議員に当選し、同五十五年まで二期八年間を東由利村（町） 政発展に貢献されました。同五十五年に町自治功労章を授与されました。故人のご冥福をお祈りいたします。

## 平成十一年度

### 「あきた県民手帳」

### 今年からふれっそ販売

秋田県統計協会が発行する「あきた県民手帳」は、統計情報豊富なことから、毎年多くの皆さんに喜ばれています。なお、今年から県民手帳は地場産業センター「ふれっそ」内のジムワンのにて販売することになりました。

平成十一年度版の「あきた県民手帳」はふれっそでお求めください。（企画課）



▲コールゆらりの合唱には弦楽演奏が



▲永慶、みどり両保育園の合唱



▲コール黄桜の合唱



▲小学校児童たちの合唱

## 音楽祭プログラム

### 【オープニング】

東由利中学校吹奏学部  
「マジエスティア」「鉄腕アトム」

### 【第一部】

永慶保育園・みどり保育園  
「電車」「せかいじゅうのこどもたち」

東由利町の小学校（八塩・大琴・高瀬）五、六年生

「笹舟」「野にさく花のように」  
東由利中学校

「朝」「思い出は空に」

### 【第二部】

コールゆらり（東由利町）  
「母」「春の夜ひそやかに」  
小松清先生の偉業を讃えて」「うぐいす」

岩谷シルバーコーラス（大内町）

「風」「琵琶湖周航の歌」

コールひまわり（仁賀保町）

「山の椿」「蔵造りのある町」

ゆりの音コーラス

「風」「ラバースコンチェルト」

やまびこコーラス（西目町）

「高原の歌」「四季は輝く」

コール黄桜（東由利町）

「美しき碧きドナウ」「えんそく」

出演者全員合唱

「四匹のお馬」「東由利賛歌」

### 東由利・成立

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
去勢	29	306kg	415,945	1,288
雌	13	302kg	321,058	1,092
合計	42	298kg	386,575	1,228

●最高金額 去勢 510,300 北国7の8 高栄 益美  
●最高金額 雌 472,500 高栄 益美 福谷1

## 十月家畜市場

### 林業だより

シイタケの生産動向

林野庁から平成九年のきのこ類の生産動向が発表されましたので、その中からシイタケ生産について紹介しましょう。

乾シイタケは、十年程前までは日本産シイタケとして世界市場を占有していましたが、平成三年頃から中国産の輸入量増大のあおりを受けて、国産品の価格が下落し、生産量も減少してきています。平成九年の生産量は、五、七八六トンと、平成元年の一一、〇〇〇トンより大幅な減産とな

## 木材共販市況

（平成十年十月・平均価格）  
四五年生から五五年生

径級	単価（石）	備考
30cm上	-円	
24~28cm	5,000円	
14~22cm	4,800円	
13cm下	2,600円	
曲り材	2,000~2,700円	

製品市況を反映し、わずか三業者の入札。落札率6パーセント。価格も弱含みで推移した。

っています。一方、輸入量は九、四〇〇トンと消費量の六二パーセントを占めるまでになりました。この根本的問題は、生産者の減少や生産者の高齢化等にあるようです。生シイタケも乾シイタケと同様に中国から二〇、〇〇〇トン輸入し、ここ数年横這い傾向にあります。国内生産は平成九年は七四、七八二トンであり、原木栽培が減少してオガクズ利用の菌床栽培が全体の四三パーセントを占めるようになって、年々増えていく傾向にあります。

（町林業懇話会会長

佐藤恒悦氏）

## 雨にたたられた両球技大会



▲10月10日の出場記念ゲートボール大会状況



▲10月18日のペタンク競技状況

### 第五回町スポーツ祭

#### 出場記念ゲートボール大会

十月十八日、第五回東由利町スポーツ祭が行われました。当日はあいにくの雨模様。当初ペタンクが町民運動場で、有隣館裏でグラウンドゴルフが予定されていましたが、雨のためげんき館でペタンク競技のみが行われました。

参加チームは多くはありませんでしたが、どのチームも全力でペタンクに取り組んでいました。「気軽に参加できていい」、「この競技なら若い人も抵抗がないのでは」となかなか好評でした。

結果は次の通り。優勝・大琴A、準優勝・蔵B、第三位・大琴B。

また、十月十日には九月に行われた文部大臣杯第十四回全日本ゲートボール選手権大会、出場記念ゲートボール大会が行われました。当初勤労者野球場外野芝生を利用しての大会を予定していましたが、あいにくの雨のため、グラウンドのコンディションが悪く、げんき館で行われました。競技の合間には選手権大会での体験が披露されていました。

なお、結果は次のとおり。  
優勝・養田チーム／準優勝・太陽チーム／第三位・蔵壮寿会チーム／ブービー賞／館前クラブチーム、法内Aチーム

## 近くて遠い故郷ふるさとに思い

### 第五回本荘東由利会総会

十月十八日、本荘市大ノ道公民館で、五回目の本荘東由利会が開かれ、本荘在住の町出身者四十余名の他、阿部幸悦町長、柳田弘本荘市長等が出席しました。

総会では、役員改選が行われ、中津川俊雄会長から遠藤重和会長に会長職が引き継がれました。  
総会後に行われた本荘第一病院院長小松寛治先生による記念講演では「二十一世紀は高齢者の時代である」と話されていました。懇親会は、和気あいあいとした雰囲気でした。



▲本荘第一病院院長小松寛治先生の記念講演

## ありがとう館前三階建校舎

### 元館前学校木造校舎が解体

九月に解体された元館前学校木造校舎。この校舎は地域の有志が資金を出し合い明治十四年に落成、当時は非常にモダンな造りの建物として注目されたとの事です。

地域の「学び舎」として親しまれた後、役場、農協支所などに転用され、空き家になっていました。取り壊しを惜しむ声もありましたが、老朽化が激しく危険が伴うということもあり、今回解体されました。

なお同校の昔の写真を探しています。情報がありましたら広報まで。



▲八塩小五年児童たちが描いた三階建ての絵

# 町のあっち、こっちから

## 入居者と共に楽しんだ一日

### 第13回東光苑文化祭

十月十八日、東光苑いちよう館を主会場に文化祭が行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが、入居者、その家族、地域住民の皆さんが多数東光苑を訪れ、今回のテーマ「ぬくもりの中で」に沿った行事を楽しみました。

阿部幸悦町長のあいさつ、各表彰から始まった祭は、コールゆらり、大琴カラオケ同好会が出演した芸能発表、紅白チームに分かれたミニ運動会など盛りだくさん。入居者の皆さんは参加者の皆さんと共に文化祭を作り上げていました。



▲入居者の皆さんによる作品が廊下に展示



▲いちよう館で行われたミニ運動会でハッスル



▲演芸では大琴カラオケ同好会の皆さんが熱演

## 野球を通して人間形成

### 野球で郡代表に選抜

平成十九年に秋田で行われる国民体育大会にむけて現在野球選手層の強化が行われていますが、その一環として東由利中学校野球部から遠藤勇樹くん、嶽石弘基くんの二名が郡市選抜強化選手として選ばれました。

十月二十四日、二十五日には本荘・由利選抜チームによる各郡地区との試合も行われました。今回全県から選抜された選手は全県で百二十名、最終的に二十名に決定する予定。今後も野球を通して確かな人間形成を目指してほしいものです。



▲郡代表に選ばれた遠藤君（左）と嶽石君（右）

## いつまでも仲良くバレーを

### 家庭婦人バレー大会優勝

九月十九日、二十日の両日秋田市立体育館など四会場で行われた第二十二回秋田県家庭婦人バレーボール連盟結成記念大会が開催され、本町から出場した東由利ウイングスが六部決勝で象潟を見事破り、優勝を飾りました。同チームは昨年七部で優勝、六部に上がったばかり。

試合一カ月前から週二回の練習で大会に備えていた、また今後の抱負は「試合に勝つより、いつまでも仲良く続けていきたい」と同チーム代表は話していました。



▲優勝を飾った東由利ウイングス

# 東由利文化クラブ

## 歯の勉強をしたヨ!

### 「八塩小学校」歯の学習



十月十二日、八塩小学校五年を対象にした町保健婦、歯科衛生士による歯科指導が行われました。最初に石膏を使い、歯の硬くなっていく様子を感じとる実験を行いました。

その後、先生方が自らぬいぐるみを被った劇を行いました。この劇は、虫歯になる前に歯を磨こうという短編劇。児童たちは笑顔で劇に見入っていました。

最後は、ハブラシとデンタルフロスの使い方指導を受けました。「歯を強くする食べ物をたくさん食べ、元気に遊ぶ事が大切」。児童たちははしきりにうなずいていました。

## 虫歯なんてないも〜ん。

3歳児健診  
( )内は保護者



鈴木将太くん  
袖山(徳之さん)



高橋友希くん  
杉森(忠広さん)



佐藤逸星くん  
八日町(博敦さん)



大塚達貴くん  
板戸(茂さん)



長沼桃子ちゃん  
新町(利文さん)

## 東由利の文芸

役目終へひかりむなしき鳥威 船木 大庭喜右衛門  
 菊月夜こころの奥に母住めり 蔵 阿部 澄子  
 青空や四方に咲きし秋海棠 時雨山 吉川 葉子  
 牛の影消えて芒の牧場かな 山崎 小松 良子  
 共白髪今日は菜の虫取りに見へ 舟打場 高橋民治郎  
 木枯やみの笠もたぬ道祖神 上里 小野石路子  
 古事談義かじか談義の髪の主 横小路 小松 文介  
 干竿の七色の露陽にまぶし 高戸屋 小松 敏雄  
 高稲架に牛飼いの里見えかくれ 久保 高橋 典三

はしやく子に目を細くする家の秋 蔵新田 小笠原トミ  
 隣にも声かけ戸を操る涼の朝 湯出野 小松 徳蔵  
 芦の穂にのって遊べり磯雀 家ノ下 小松 正昭  
 牧に牛みえず小ダムに落葉急く 下小路 小松 メサ  
 骨だけとなりて案山子任務終え 湯出野 佐藤 正義  
 大花野風の行方を見ていたり 小倉 遠藤トミ子  
 日は沈み霧にかくるる鳥海山 横 渡 高橋ヒデ子  
 ふる里を恋うて色づく鳥瓜 五海保 嶽石 レイ  
 吹き荒れて垣根の奥の名残萩 中通 小松順之助  
 十五夜の兎に飽きし子の寢息 横小路 宮野源二郎  
 眼だけ出し女工冬めくヘルメット 蔵新田 小笠原亮子  
 峡に住み光陰わかつ紅葉山 蔵新田 小野 貞子

### 東由利スキークラブ30周年記念特別講演が行われます

スキークラブ設立三十周年記念行事として次のとおり特別講演が行われますのでご聴講ください。

日時 十一月七日(土)  
午後一時三〇分

場所 有鄰館二階「集会室」  
講師 渡辺三郎氏  
(プロフィール)

昭和二十八年山形県朝日村に生まれる。一九九六年、北海道ルスツリゾートで開催された第三十三回全日本スキー連盟デモンストラーター強化コーチを務めている。  
(公民館 ☎六九―二三―)

## アイドルをさがせ!



小野謙太郎ちゃん(1歳)  
お父さん:晃一さん  
お母さん:久美子さん  
【須郷田】

お話し:瞳さん(祖母)

昨年八月謙太郎ちゃんが生まれて四世代がそろった小野さん家。賑やかな毎日を送っています。どんなお孫さんですか。

「大きな病気もせず、一気いっばいの子ともです。外に出すとどんどん歩いていくので、目放しなりません」

好きなものは何ですか。

「食べ物にはミカンなどのくだもの。動物だと犬が好きなんです。それから車などの乗り物も好きなんです」

最近のエピソードはありますか。

「音楽に合わせて体をゆすり、踊ることが出来るようになりました」

将来の希望はありますか

「丈夫で思いやりがある、健康な大人になってほしいです」

# 異国を思う

## 合同海外研修

オーストラリアは南半球にある世界最小の大陸。北はアラスカ海、東は太平洋、南と西はインド洋に面する国です。

毎年行われている合同海外研修（アジア・オセアニア）が今年も十一月二十日から二十六日までの七日間行われますが、それに先立ち、十月二十七日、有鄰館で合同

海外研修結団式が行われました。今年も、昨年までの大内町に加え、南外村も参加、二町一村の研修になりました。

参加者は、大内町四名、本町七名、南外村五名の総勢十六名。年齢、職場など異なる皆さんです。

結団式では、東由利阿部町長、大内町小笠原助役、南外村佐藤助役がそれぞれあいさつ。その後、研修団の代表あいさつ、研修生の自己紹介が行われ、次第に研修に対する思いが高まったようです。



▲合同海外研修結団式の状況

# 初めての登山

## 初めての鳥海登山

下郷分校三年生

畠山明彦くん



十月九日、私たちは五十周年記念ということで、初めての鳥海登山を体験しました。心配していた天候も、当日はこれ以上はないというほどの快晴で、安心して山に登れました。

朝八時前、教頭先生を先頭に一

斉に祇川をスタートしました。初めての登山ということもあって、足場の悪さにはとても苦労しました。けれども、山一面大きな岩だらけでびっくりしたり、登山道のそばを流れている水を飲んでみると、冷たくて疲れが吹き飛ばさうだった。雲が手に届きそうなくらい近くにあったりと、次々やってくる新鮮な出来事に気持ちも弾みました。

やっこのことで頂上に着くと、何ともいえない達成感でいっぱいでした。頂上付近にはまだ雪も残っていて驚きました。もっと寒いと思っていたけれど、そんなに寒くなく、吹く風がとても心地よく感じられました。

今回の登山は、参加者全員登頂することができ、大成功に終わりました。最後まで無心に歩き続けた一日でしたが、私にとって高校生活の中でまた一つ貴重な体験ができ、よい思い出になりました。

# おかしむかし

十七

## 桜清水

むかしむかし、ずつとの昔、桜清水というところに爺さまと孫の若者が住んでいました。

こんこんと湧き出る清水のほとりに、春になると枝いっぱい花の咲く桜の木があることから、村人は桜清水と呼んでいました。

爺さまは春になると、桜の木のつぼみを見あげながらうきうきしています。やがて、うすも色の花が枝いっぱい咲くと、爺さまは朝から一日いっぱいその美しさをうっとりとながめていました。

花が散りおわると、今年もまた来しませてくれてありがとよ・・・と花びらを集めて桜の木の根もとに埋めてやるのでした。

爺さまは、夏の暑い日も寒い冬の

日でも、ときどき目をつむって、桜の花の美しい姿を思い浮かべ、まい日まい日過ごしてきました。

その爺さまも歳をとり、木枯らし吹く頃になると風邪がもとで寝こむようになりました。

明日はきつと、初雪に逢いたくないという寒い晩のことでした。起きあがることのできない爺さまは、看病の若者にほそつと言いました。

「長生きして幸せだったが、もう一度桜の花を見たいもんじゃ」。爺さまは目をつむり、涙をながしているのでした。

きつと、満開の桜の花を思い浮かべているのでしよう。いたたまれない若者は、清水のそばの桜の木の下にきました。

「桜の木さん、どうかもう一度爺さまが生きている間に花を咲かせてください」と心から祈り続けました。

寒い夜空を見上げると、どうやら白いものがふわふわ降りてきたようです。

やがて、夜が明け朝がきました。あたりはまぶしいほど朝の光で

いっぱいです。若者は桜の木を見ると、枝に降った白い真綿のような雪に、そそくように朝の光を浴びて、まるで桜の花がいっぱい咲いているようでした。

若者は、急いで家に帰り爺さまをおんぶし、桜の木のそばに連れてきました。桜の木の美しい雪化粧した姿を見せたかったのです。桜の木を見あげる爺さまは驚いて、涙をほろほろこぼし、「こんなにみことな美しい桜の花は見たことがない。わしはほんとに幸せものじゃ」。背中で爺さまのつぶやく声に、若者は涙をこらえてうなずくのでした。

満開の雪の花は、ほんとうの桜の花びらを思わせるように朝の光でキラキラと輝いていました。

「須郷田小松常太郎氏（故人）の語りより採話

（文と絵 石渡力造氏



# 11月▶データ東由利

〈9/1~30〉

住民基本台帳人口 ( )は前月比

- 男……………2,549人 ( 2)
- 女……………2,699人 (△3)
- 計……………5,248人 (△1)
- 世帯数………1,392戸 (△1)

( )は1月からの累計

- ・出生2人(22)・死亡2人(47)
- ・転入5人(60)・転出6人(125)

- 火災出動……………1件 (1)
- 救急出動……………14件 (111)
- 交通事故……………0件 (4)
  - ・死亡……………0人 (0)
  - ・傷者……………0人 (7)
- 飲酒運転……………0人 (2)
- 酒気帯び……………0人 (0)



東由利

## 郷土の野草

NO.165

コチャルメルソウ  
(ユキノシタ科)

文・写真 小松忠正氏

本州以南の各地の山地に生える多年草で、根生葉には、長い柄があり、卵円形で茎、葉身には表裏ともに毛があら

ります。葉縁は浅く裂け鋸歯があります。五月ごろ、二十から三十センチくらいの花茎をたて、それに数個から十個くらいの褐色か、黄緑色の花を横向きにつけます。花弁は羽状に七から九裂します。チャルメラというのは中国のラッパに似た楽器のことで、熟した果実がそれによく似ていること、チャルメルソウより形が小さいこと、この名がついたとい

# 11月の行事予定

- 1~30全国青少年健全育成強調月間
- 1 秋まつり1998 (有隣館他)
  - 3 文化の日
  - 3 郷土史講話
  - 5 町功労者表彰式 (有隣館)
  - 7 スキークラブ発足30周年及びスキースポーツ少年団10周年記念式典 (有隣館)
  - 8 農業者大会 (有隣館)
  - 9 秋田県カレッジー猿倉人形 (有隣館)
  - 13 福祉と健康の集い
  - 13 ことぶき大学
  - 14 フランス鴨ワインパーティー
  - 23 勤労感謝の日
  - 25 農業委員会
  - 20~26 町民海外研修

## 戸籍の窓口

(9月21日~10月20日届出)

●お誕生おめでとう

9/29 佐藤 唯人さん (友也) 湯出野

9/30 小野 靖佳さん (美和子) 大琴

10/2 畠山 礼さん (俊明) 寺田

10/9 菊地 那奈さん (晃) 大吹川

●ご結婚おめでとう

10/6 畑山 伸行さん (五海保) 本莊市

●ごめい福をお祈りいたします

9/26 佐藤 義雄さん (58) 由美子・夫・松柴

9/26 遠藤 庄二郎さん (82) 信一・父・小倉

10/6 佐々木マサオさん (79) 正輝・母・大琴

10/6 長谷山直助さん (88) タツヨ・夫・地下沢

## まぶらいろ

社会福祉協議会に遠藤信一さん(小倉)、佐々木正輝さん(大琴)からご芳志が、また広報送付謝礼として、佐藤一芳さん(本莊市在住)、阿部徳四郎さん(本莊市在住)から金一封が届けられました。ありがとうございました。

## 音楽を通じて

### 本当の出会いと友情を

毎年一度秋田市で行われている「あいのこ」さあ。今年も十月十一日、秋田県児童会館子ども劇場で行われました。このコンサートは障害を持つ方とボランティアの皆さんが協力しあい、歌を通しての出会いをと、行われている催しです。

このコンサートで木島賢さん(鳥)の詩が十回目の入選を果たしました。木島さんの詩は以前このコンサートでの入選がきっかけになり、現在、由利地区



## 今月の写真スナップ

なべっこ遠足で



皆が一生懸命取り組んだなべっこ。最高においしかったヨ!!。

のJA機関誌に毎回掲載されています。木島さんの詩にはエレクトリン奏者の水谷かよ子さんが曲をつけ、当日発表しました。木島さんの詩を紹介します。(一番のみ)

「地球が風邪ひいた」

地球が風邪ひいた  
緑の洋服剥ぎ取られ  
コンクリートやアス  
ファルトの冷たい服  
着せられて風邪ひい  
た  
風邪をひいて  
大きな大きなクシャ  
ミした(ハクシヨン)  
そしたら火山が噴火  
した(ドッカーン)